



夢いっぱいの子 No13

令和5年 6月27日

平戸市立生月小学校
校長 大石 信弥

今週は、生っ子の心を見つめる教育週間です。この世にたった一つの大切な大切な命についてしっかり考える週間にします。早速26日（月）の朝、全校集会で次のような話をしました。

「命」の話

今日は「命」についてお話ししたいと思います。

「カラス なぜ鳴くの カラスは山に ♪」皆さんは、この曲を知っていますか？そうです、夕方5時50分ごろ流れる「七つの子」という曲ですね。その童謡のを作詞したのは野口雨情さんという人です。

今でもたくさん歌い継がれている曲があるのですが、特に有名な曲の一つに「シャボン玉」があります。

「シャボン玉飛んだ 屋根まで飛んだ 屋根まで飛んでこわれて消えた ♪」という歌です。皆さんも知っていますよね。

この詩は実は「命の歌」とも言われています。なぜかという、雨情さんが、二十七歳の時に、かわいい女の赤ちゃんを授かりました。どんなに嬉しかったことでしょう。でも、その赤ちゃんは、生まれて八日目に亡くなってしまいました。その時の悲しみを詩にしたのが、この「シャボン玉」の歌なのです。「シャボン玉消えた 飛ばずに消えた 生まれてすぐにこわれて消えた」せっかく生まれてきた命、ずっとずっといつまでもいてほしかったというお父さんの悲しさが込められた歌です。

皆さんは、命をもっていますよね。皆さんの命はどこにありますか。心臓も脳も大切なものだけど、心臓や脳は命そのものじゃありません。命は、目に見えないもの、手で触れることもできないもの。目には見えないけれど、大切な命。この命は、皆さんのお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、そのまたおじいちゃん、おばあちゃんからいただいたものです。ですから、皆さんの命はこの世に一つのとっても大事な、大事なもののなのです。

また、お友だちの命も同じです。たたいたり蹴ったりすることはもちろんのこと、言葉でも傷つけるようなことをしてはいけません。皆さんはいやだなと思うことをわざとやったり、チクチク言葉を深く考えないで言ったりしていませんか？神様から授かったわたしの大切な命、お友達の大変な命。大人になったとき、それをどう役立てるのか、そのために今、夢を持ちいろいろな勉強をしているのです。そして、生月小学校のみんなが、来ることが楽しくてたまらない学校にしていきたいと思います。

今日から「生っ子の心を見つめる」教育週間として、多くの人にみなさんの学校生活の様子を見ていただきます。一生懸命勉強している様子、友だちと仲良くしている様子、そして精一杯生きている様子を見ていただきます。

長崎っ子の心を見つめる教育週間キャラクター

キャラクターの名前は「ここぼん」。佐世保西高校美術部が作成しました。みんなの心の中にいる妖精であり、うれしい時や悲しい時、いつもそばに寄り添ってやさしく包み込んでくれる存在で、家族の大切さ、自己肯定感、自尊心の大切さを教えてくれます。



教育週間のめあて

教育週間では、次の2つのことにも力を入れていきます。

- ①友達と仲良く助け合って生活すること
- ②友達とのやり取りでは、立ち止まり、よく考えて行動すること。
(これでいいのかなと考えて行動する)

自分の命の大切さを考えるとともに、お友達の命を大切にしていくこと（他者とのかかわり）もしっかり考えていきます。

紙風船さんによる「読み語り会」

21日（水）図書ボランティア「紙風船」さんによる読み語り会を2校時を低学年の部、3校時を高学年の部として実施しました。「絵本の読み語り」「エプロンシアター」「大型紙芝居」「パネルシアター」「ブックシアター」と様々な方法で、子供たちに物語を届けてくださいました。その中には生月に伝わる「ほうくらのかっぱ」という紙芝居も取り上げられていました。聞いている生っ子も目を輝かせ、笑ったり、手拍子をしたりととても楽しんでいました。

お忙しい中、準備から本番まで行ってくださった紙風船の皆様ありがとうございました。



スマイル掃除

6月に入り「スマイル掃除」が始まりました。スマイル掃除とは、異学年で交流しながら、思いやりやリーダー性を伸ばすために行う掃除です。

第2回目を6月21日（水）に実施しました。高学年がリーダーシップを発揮し、協力しながら掃除する姿がたくさん見られました。

このスマイル掃除は3月上旬まで、毎週水曜日に実施していきます。3月に一歩成長した姿を思い描きながら続けていきます。

